

福祉社会が、つくも園改築を公告(2面)  
 空港誘導路部の舗装改修を計画(11面)  
 育成型清幌地区、12年度着工へ(12面)

ニュースのご一報、  
 ご購読の申し込みも  
 当社のホームページへ  
<http://e-kensin.net/>

# 発生メカニズム解析し 防災体制再構築を提案

## 震災の本道津波で合同調査報告会

東日本大震災の発生直後に、北海道沿岸に押し寄せた津波の威力を検証し、今後の防災体制の再構築に反映させるため、道内の大学や高専、研究機関でつくる北海道津波合同調査団が11日、北大学術交流会館で「東北地方太平洋沖地震津波・北海道津波合同調査報告



本道での津波被害を防ぐ政策や体制づくりについて議論を深めた

会」を開いた。津波の被害を防ぐには、避難体制を再構築する「ソフト」と防災・減災を実現する社会資本整備の「ハード」を組み合わせる対策が提唱されているが、今回の報告会でもその必要性を裏付けた。道内の大学や行政、研究機関の職員をはじめ、建設会社や建設コンサル

タント会社の技術者ら340人が参加した。マグニチュード(M)9の大震災は宮城県沖を震源とし、プレートの上層運動で発生した。津波は第2波、第3波と数回に及ぶたびに大きくなり、一度避難した住民が自宅に戻るなどして深刻な被害が拡大した。本道の太平洋沿岸を現地調査した北大大学院の渡部靖憲准教授は、津波の基本的な特性から「本道に到達した津波は襟裳岬で大きくなり、東西の海岸線に分岐した」と語り「第2、第3のエッジ波が生まれ津波は大きくなった」と解説した。特徴は1933年の昭和三陸沖地震と68年の十勝沖地震と同じだという。津波のメカニズムについて「進路が狭まると波が高くなる。平野部は浸水域が広がり、高台への波は海岸の2、3倍になる」と(渡部准教授)と語

り、「海岸線から遠かったり、標高が高いからと津波が来ないとは限らない」と結論付けた。渡部准教授は最後に、本道では30年以内に根室沖でM7・9の地震が40-50%の確率で発生し、「十勝沖と連動するとさらに大きくなる」と警鐘を鳴らした。

### 透視図

太平洋沿岸にある44の中小河川を調査した報告では、北大大学院の川村里実准教授が「大河川は遼上(そじょう)距離が長く遼上高は低い。逆に中小河川は短いが高い」などと解析し、堤防や橋梁のかさ上げ、水門など津波を考慮した適切な河川整備を提案した。日高、十勝などI-15

1人の住民を対象に実施した避難行動アンケートでは、実際に避難はしたものの、自分の判断で自宅に戻ったりするなどの問題が浮き彫りとなった。パネルディスカッションは、北大大学院の教授ら5人が津波防災について議論し、「将来の津波被害を想定し、対策を検討するべき」「施設で人命を守る整備が必要」など具体的なイメージを出し合った。

▼入れ歯をしたロバの話をご存じだろうか。1941年から65年まで東京の上野動物園にいた。名を「一文字」という。子どもを乗せる馬車を引いて人気を博する中、老齢でえさが食べられなくなつた62年、「長生きを」と入れ歯が施された。では、一文字が上野動物園に来たのが美談でないのはご存じだろうか。一文字は日中戦争の物資輸送で活躍したロバで、日本軍が戦意高揚を図るためだったという。

▼さらには、「いればをしたロバの話」という本をご存じだろうか。児童文学作家・今西祐子が著者で、71年に金の星社から出版された。一文字を素材にした物語で、美談ではない方のことを書く。美談にはなり得ない戦争について書く。日中戦争で「一文字が味わった恐ろしい銃撃戦、つらい行軍、祖国中国の人たちとの別れ、動物園での飢え、クマやライオンなどの猛獣殺し、毒入りえさに手を出さないソウの飢え死に...」戦争というものは怖い。一文字を通して、その怖さを伝える。

建築情報検索ネットサービス  
**ビズブリネット・ドットコム**  
 営業戦略ツール満載!! 物件数量調査 無料公開中 大容量メール転送  
 ・ビズブリアイルBOX(会員様限定) プライバシー管理万全  
 ※PC初心者の方でも簡単に使用可能です。  
 登録・閲覧全て無料!! **ビズブリネット** 検索  
<http://www.bizbri-net.com>

# 太陽光発電パネル商品

